2007～2008 年度　ROTARY　CLUB　OF　TOYOKAWA　HOI CLUB　WEEKLY

# やらまいか

例会日：毎週火曜日 12：30　　例会場：豊川商工会議所
会　長：井指光基　　幹　事：山城康司　　ＳＡＡ：笠原盛泰　　会報委員長：小野喜明
事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内　℡0533-86-2535　Fax0533-86-8889
ホームページ http://toyokawahoi.tank.jp　　Email hoirc@sala.or.jp

## 本年度４２回　　通算第１０６８回　　平成２０年６月３日（火）　晴

ゲ ス ト　　愛知大学学長代行　佐藤元彦氏　　米山奨学生　グァン・ハイ・ヴァンさん
ビジター　　（なし）
出席報告　　宮崎眞一委員長

| 会員総数 | 計算会員数 | 本日の出席者数 | 本日の出席率 | 5／20 修正出席率 |
|---|---|---|---|---|
| ５５名 | ４３+3名 | ３０名 | ６３．１％ | ８４．８％ |

司会進行　　笠原盛泰ＳＡＡ

### ★会長の挨拶及び報告　　井指光基会長

こんにちは。先週の春の行楽で京都宇治に出掛けました。大変良いお天気でした。バスの中では、伴パスト会長さんの源氏物語についてのお話も聞けまして大変良かったです。ありがとうございました。

昨日テレビを見ておりました。現在 20 代の若者は消費をしない、お金を使わないそうです。車を買わない、物を買わない、そんな時代に入ってきているそうです。日本の経済も変わってくるのではないかと感じました。日本の経済は今まで輸入してきましたが、物が高くなってきたことで、日本で作っても採算が合う経済がこれから生まれるのかもしれません。農業が盛んになり、エコも盛んになってくるのかもしれません。ドイツは、高いお金を払ってでもエコ生活をするという経済で成功をしているそうです。日本も節約ではなく、エコをして経済が発展していけばと良いのではないかと思いました。

### ★幹事報告　　山城康司幹事

例会臨時変更のお知らせ
　豊橋南・豊橋東・奥三河・豊橋ゴールデン

### ★米山奨学生の紹介

**カウンセラーあいさつ　　小野喜明会員**

本年 4 月から 2 年間にわたって米山奨学生のカウンセラークラブになり、私が奨学生のカウンセラーを仰せつかりました。

先日、名古屋の研修会で初顔合わせをして、今日皆さんにご紹介させて頂きます。ベトナム出身で、豊橋技術科学大学の大学院生の修士 1 年生のグェン・ハイ・ヴァン君です。この 2 年間で、年間 2 回の米山レポート提出をして頂きます。そして毎月第一例会日に来て頂いて、奨学金月 14 万円をお渡しをしていきます。これは米山奨学会の方から豊川宝飯ＲＣに送金されたものを、毎月渡していきます。また、卓話をする機会があると思いますので、本日は自己紹介のみとさせて頂きます。なお、皆さんの事業所など訪問させて頂いて交流を深めて頂ければと思っています。どうぞよろしくお願いします。

米山奨学生あいさつ　　ヴァンさん

皆さん、こんにちは。豊橋技術科学大学の修士1年生のグェン・ハイ・ヴァンと申します。ヴァンとお呼びください。日本に来てから7年目に入りました。これから2年間お世話になります。皆さんのご指導をよろしくお願いします。

## ★環境保全担当例会

### ◎伊藤正幸環境保全委員長挨拶

本年度の環境保全委員会は、事業として豊川養護学校の残された10教室の壁に間伐材を貼って「教室の空気はビタミン材」運動をロータリーの有志の皆様方と一緒に完成をさせて頂きました。

本日の担当例会は、愛知大学の佐藤先生を講師にお招きしました。佐藤先生は、愛知大学の三遠南信地域連携センターのセンター長をお努めで、この豊川流域、上流と下流のパイプ役をして頂いて、私どもの山の現状を思うと、町側として何が今出来るのか、そのようなことをお話頂けたらと思っています。

また、本日の卓話タイトルを「愛知大学と地域貢献」として頂いていまして、この豊川や豊橋に伝統ある愛知大学があって、その学生さんが地域の中小企業に就職してもらったり、大切な学生さんの資産を充分育てて頂きながら、そのことによって我々の地域が発展をする、また環境に思いをもった学生さんがひとりでも多く増えて、我々の企業が受入をできるようになったらと思っています。

では、佐藤先生のご紹介をします。佐藤元彦（さとう　もとひこ）さん、昭和３３年生まれ、青森県弘前市出身です。昭和５７年に慶応義塾大学経済学部を卒業後、平成元年に広島大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学し、特殊法人日本学術振興会の特別研究員となる。平成３年から愛知大学経済学部専任講師、平成６年に助教授、平成14年に教授にそれぞれ就任。平成15年４月～平成19年３月には経済学部長も務められました。また、平成16年に愛知大学内に設置された三遠南信地域連携センターのセンター長を兼務していいます。さらに、平成19年11月より副学長も務められて、つい先日より学長代行を務められています。なお、平成15年には外務省派遣講師としてパプアニューギニア国会に赴き、平成17年には豊橋市・南通市友好訪問団員を務めるなど、海外においても活躍中でございます。それでは、ご静聴よろしくお願いします。

### ◎卓話「愛知大学と地域貢献」

愛知大学　佐藤元彦学長代行

こんにちは。ただ今ご紹介頂きました、愛知大学の佐藤でございます。本日は、お話をさせて頂く機会を頂きまして誠にありがとうございました。

実は伊藤さんとは、私の自宅を建てて頂きました関係で個人的にも知り合いです。私は青森県の弘前の出身で、愛知大学に17年前に来ました。この地で子ども達も大変伸び伸びと育っております。なんとかこの地域に自宅を持ちたいと永年考えていました。伊藤さんは、この地域の木材を使われること、そして環境に対してもかなり熱心に取り組んでいるということで、家を建てるなら伊藤さんと思っていました。そして、つい先だって念願の自宅を建てることができました。その際に、伊藤さんから、大学としての取組みにいろいろとご質問を頂きまして、今回の講演に時間を頂いたと思っております。愛知大学と地域貢献についてということで、この地域に根ざして大学が色んな取組みをしてきておりますので、その一端を紹介させて頂ければと思っています。

昨今、大学がいかにあるべきかという中で、必ず触れられるようになってきているのが「ＵＳＲ（大学の社会的責任）」という言葉です。企業の関係者の皆さんは、自分の会社のＣＳＲ（企業の社会的責任）は勿論ご存知であると思いますし、取り組まれていると思います。実はＵＳＲが、最近の大学づくりでは非常に大事なコンセプトになってきています。もちろん大学は学生を受け入れて、そして教

育を行なう。あるいは社会に貢献するように研究を行なう。すでに一定の社会的責任をはたす存在として認識をされてきたわけです。しかし、改めて、社会に対して貢献をするということに、意識的に取り組むべきだというのが、文部科学省を含めた一般的な考えになっております。

改めてＵＳＲを考えた時に、愛知大学としてどのような取組みをしてきたのか、意外に知られていないこともあります。愛知大学の前身が中国にあったこともありまして、中国との関係は強いものがありました。中国との関係で言いますと、砂漠の緑化活動を今年で13年目になりますが継続しております。中国の内モンゴルに恩格貝というところがあり、この恩格貝の郊外にクブチ砂漠があり、その砂漠に1995年に第一次隊を派遣し、毎年、教員、事務職員、学生と卒業生、更に民間の一般の方々で、40～45名の植林隊を派遣しています。私も5年前に隊長として訪れています。これまで植林した本数は1万本を越えました。植えるだけではなく、植えた後の世話も現地任せにせずに、自分たちでできる枝の剪定等はやって来ています。鳥取大学の名誉教授であった遠山正瑛先生が会長を務めていた沙漠緑化実践協会の活動に、当初は愛知大学が参加する形でしたが、参加をしたいという人が学生を含めて多く、現在では独自に派遣する展開になっています。改めて社会貢献として、教育と研究以外に何をやっているか考えた時に、この活動があげられます。教育との関係でやや補足をしますと、実は最近の学生は、なかなか現場を知る機会がありません。バーチャルな世界や頭の中の世界だけで勉強をしようとする傾向にあります。いかに現場に出る機会を社会に出る前に作っておくか、そのようなことも大学教育の中で重要でありまして、フィールドワークとか調査論とか、かつてのカリキュラムではあまりない科目も現在では設定されています。それに加えてボランティア的要素もあります。大学としても学生がこの活動に参加することを教育的にも奨励してきております。参加費についても一定の補助を出しています。若干宣伝を申し上げます。もし愛知大学のメンバーと一緒に行って植林をしたいというご希望があれば、一般の受付もしておりますので、ぜひ愛知大学に直接問い合わせ頂くか、ホームページから問い合わせを頂きたいと思います。ポプラの木を植えておりますので、「愛知大学緑の協力隊・ポプラの森」というネーミングで活動しています。

愛知大学として地域への社会貢献をこの間進めてきております。資料の中に愛知大学の設立趣意書がありますが、これは1946年11月の設立時の趣意書でございまして、設立時に具体的な趣旨の第一として、愛知県の豊橋市に大学を置くのに、その理由は何かと書かれています。「日本において学問文化の興隆を図るためには、その大都市への偏重集積を排し地方分散こそ望まん」ということをこの段階で言っています。今日こそ地方の時代であると言われていますが、愛知大学は設立の当初から地方分散が望ましいとうたっております。私は愛知大学に勤めて17年になりますが、この設立趣意書を見たときには、さすがにビックリしました。実に見事である。先見の明があると自負をしている次第です。この設立の趣旨に基づいて、地元の調査研究が続けられてきました。綜合郷土研究所と中部地方産業研究所、すでに50年以上の歴史を持って研究の蓄積をしてきています。

改めてＵＳＲ時代における、この地域での研究とか教育とは何かと考えた時に、どうあるべきか考えようとした時に、当時の武田学長から言われまして、この地域の行政や財界の方々、住民の皆さんと話をする機会を持ちました。その結果、非常にショックを受けたというか考えなくてはいけないと思いました。愛知大学がこの間に何をやってきたのかということは、それなりにご理解して頂いていましたが、具体的に研究の成果がこの地域にどういう形で受け止められているのかということについて、大学は意外に知らなかったということです。当時の武田学長の発案もありまして、地域連携の組織を設立する必要があるだろうという結論に至りました。そこで、三遠南信地域連携センターを2004年10月に立ち上げました。このセンターの設立の趣旨は、今までの地域研究調査の成果、実績を踏まえた上で、それを直接的に地域貢献に繋げていくための取組みを強化していこうということです。

三遠南信というと自動車道とお考えになると思いますが、我々の発想にあったのは、三遠南信というネーミングを使いながらも、従来の行政の枠を超えた地域づくりが必要ではないかということでした。この地域で川にし

ても山にしても、基本的に行政の境界として使われており、川を川として、山を山として保全をするという取組みが、実は欠けています。これからの地域づくりを考えていく時に、従来の行政の単位をベースにすることも大切なのかもしれないが、この地域のあり方も含めて考えていくように、そんな地域連携を考えていきたい。行政の枠を超えた地域づくりを基本的に示すネーミングとして、三遠南信を使わせていただいたという経過があります。

豊川も、豊橋市・豊川市・新城市の行政単位でいわば輪切りにされているわけです。奥三河方面に行くと、森林の管理がどのようにされているのかと疑問に感じることがあります。奥三河方面の森林については、静岡と愛知と長野の境界によって事実上分断をされています。その森自体をそのまま保全するといった発想は出てこないんです。長野は長野として管理、愛知は愛知として管理、静岡は静岡として考える。そんな状況の中で、森は森として管理する、そんな地域のあり方を問題関心としてこのセンターは抱いてきました。一方では行政単位の地域貢献の考えもあると思いますが、他方において、行政が境界によってなかなか取組みが出来ないので、そういった意味でもこのセンターを立ち上げました。森林の保全､川の保全､海の浄化については、このセンターが立ち上がったときから大きな問題関心としてありました。研究調査も大事ですが、研究調査に加えて、豊川を豊川として保全していく、森林を森林として保全していくような、それを担う人材をどう育成するか、そのことを通して地域貢献をしようというのが大きな取組みとして始まったわけです。民間と大学が決定的に違うのは、やはり大学は人材を養成する、ということで大きな貢献をしなければいけない。大学の中に入って頂いた皆さんにどういう教育をするか、加えて大学に関心を持って頂いている社会人の方々にどのような参加の機会を与えるか、こういうことも重要であると考えてきています。

そこで、三遠南信地域連携センターは、ただ今申し上げました分野での活動として、「とよがわ流域大学」を 3 年前に開校しました。「とよがわ流域圏講座」を 2 年前に開講しました。そして昨年、「とよかわ流域大学・とよかわ流域圏講座実践コース」を開講して今日に至っております。資料にそれぞれの概要が記載されています。

通常の公開講座と決定的に違うのは、自ら主体的に学ぶというスタンスを重視したことであります。受講生は、講座を聞くと同時に最終的には、豊川流域の一体化を進める、豊川流域圏づくりを進めるための企画提案書をまとめて、一般市民の前で公表して、そしてコメントを頂く､そういう形になっています。その結果として、いくつかのグループで企画提案書をまとめて、今年はこれを具体的に動かしていく段階に至っています。いろんな提案があります。水という観点からすると流域一体化は当たり前の話で、森林の保全と川の保全と海の浄化は、相互に結びついている関係ですから、とても切り離せないものと考えます。ただ、それだけでは流域の一体化がすすまないので、それ以外に何が可能なのかということを、受講生の皆さんが具体的に考え始めて、それで地域通貨の提案をするとか、豊川流域全体を考えた地域通貨のあり方とか、観光資源や文化資源で上流と下流には共通性があり、それをもっと掘り起して観光計画に結び付けていくとか、いろんな計画が出てきております。今年度については、受講生主体の取組みに対して、改めて予算措置を講ずる予定です。具体的に担っていく人づくり、ここを重視した講座を続けてきています。

時間の制約もあり言い足りない部分もありますので、お手元の資料のパンフレットをご覧頂き、ご不明な点などお問い合わせ頂ければ、私を含めてスタッフがいつでも対応をしますので、ぜひこのパンフレットをお読み頂ければと思います。また、中部圏の将来像を考える国土形成計画市民講座が、6 月 13 日から始まります。宜しくお願いします。ご静聴ありがとうございました。

愛知大学ホームページ
http://www.aichi-u.ac.jp/asp_pub/Au_top.asp

## ★ニコニコボックス

◎その他

伊藤正幸会員　本日担当例会です
岩瀬　保会員　誕生日を祝って頂き
伴　辰三会員　春の行楽ありがとう
大岩一仁会員　所要にて途中退席します

会報担当者：小野喜明会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。